

善なる地上天国創建の決意、新たに

「真の父母様御聖婚 56 周年記念式」を挙行

天曆 3月16日(陽曆 4月22日)夕方、韓国・清平の天正宮博物館の中庭で「天地人真の父母様御聖婚 56 周年記念式」が盛大に挙行され、韓国内外から約 800 人が参席しました。日本からは宋龍天・ソウリョウテン 全国祝福家庭総連合会総会長ご夫妻と徳野英治会長ご夫妻をはじめ、先輩家庭、元宣教師など約 260 人が参加。御聖婚式の摂理史的な意義を振り返るとともに、真のお母様の愛と犠牲の上にもたらされた「聖物」を授かりながら、祝福家庭としてもう一度悔い改め、生まれ変わって VISION2020 の勝利に向けて再出発する貴い時間となりました。記念式の模様は、インターネットを通じて全世界に生中継されました。

御聖婚の宇宙史的な価値を確認

真のお母様は、VISION2020 に向けての 7 年路程の最初の 3 年路程を、侍墓精誠生活と天宙聖和 3 周年の勝利を通して天の前に奉獻。その上で、2020 年までの「希望の 4 年」の 1 年目を迎えるにあたり、真の父母様の御聖誕とともに、御聖婚記念日の宇宙史的な意味と価値を改めて強調され、今回の式典が開催される運びとなりました。

記念式は、宋総会長の心情的かつ力強い報告祈祷の後、「真の愛、真の生命、真の血統、新時代の起源 真の父母様」と題する記念映像を上映。真の父母様の御聖婚式に至るまでの経緯や摂理歴史におけるその価値をドキュメンタリー形式で紹介しました。

続いて、世界中から集まった参加者の感謝と喜びの拍手に迎えられ、真のお母様がお入り。花束贈呈、ケーキカットの後、韓日米の代表指導者から礼物がお母様に贈呈されました。

引き続き、ムンヨンナ 文妍娥・世界平和女性連合会長が歓迎の辞で、真のお母様が今回の記念式に先立ち、深刻な立場で特別の精誠を捧げてこられたことを証されました。

韓国の元老食口の証し、祝詩の朗読、祝歌に続いて、真のお母様が「天一国聖物」(聖酒、聖燭、聖塩、聖土)を 13 人の大陸会長に下賜されました。

これについて、チヨソンイル 趙誠一世界本部長は、「(聖物を通して) 真の父母様が祝福家庭を再び許していただき、



もう一度抱いてくださるためには、私たちが想像できないほどの愛の十字架を越えなければなりません」と指摘。「全祝福家庭は真の父母様の心情を相続し、天一国の安着と VISION2020 の勝利を天の前に奉獻することを決意しましょう」と訴えました。

一方、真のお母様は聖物下賜の後にみ言を語られ、「天の父母様の夢、人類の夢は真の父母様です。真の

父母様によってのみ(人類が直面する困難な)問題がすべて解決されるのです」と強調。「だから先に導かれた皆さんが、見せてあげ、教えてあげなければなりません。世の中の前に堂々と、人類の願いである真の父母様が来られたことを伝えなければなりません」と語られました。

最後に、お母様は「私たちが精誠を尽くして人類

の前に善なる地上天国の姿を現していかなければなりません。それに同参する皆さんになって欲しいという思いを込めて、(乾杯の音頭)『勝利提議』を唱えます」と語られた上で、「天の父母様と私たちの夢を、勝利、勝利、勝利」と乾杯のご発声。それに合わせて、参加者全員がグラスを掲げながら「勝利」を 3 回唱えました。(3面に続く)



①歓迎の辞を述べられた文妍娥・世界平和女性連合会長 ②証しをした朴普熙・韓国文化財団名誉理事長 ③御聖婚式の摂理的背景を述べた金榮輝・天議苑長 ④特別報告で記念式の内的意義を解説した趙誠一世界本部長 ⑤真のお母様から「聖物」が入った箱を受け取った大陸会長たち ⑥エンターテインメント楽しめる真のお母様（中央） ⑦夜空に鮮やかな花火が打ち上げられた ⑧力強い歌と踊りを披露した宮城教区の壮年合唱団 ⑨記念式の翌朝、祝勝会でケーキカットをされる真お母様（4月23日、天正宮博物館）

【参加者の声】

南東京教区 渋谷家庭教会

横井捷子さん(43双)

屋外で行われる晩餐会に出席したのは初めての経験でした。だんだん日が暮れていく空の様子、テーブルの上に揺れるローソクの灯りなど、演出がとても素晴らしかったです。途中で司会から「空を見上げて下さい」と言われて見上げると、真のお父様がそこにおられ、会場の雰囲気すべて知っておられるというような感覚をおぼえました。こうした大きな行事は、真のお母様がプロデュースされると伺っていますが、センスの良さはもちろん、皆を慰め励ましてくださるお母様のご心情を感じました。2020年までに神氏族メシヤとして勝利できるように頑張ろうと改めて決意させて頂きました。

りました。また、聖物という貴い贈り物を頂き、私たち祝福家庭がもう一度悔い改めて生まれ変わり、VISION2020を勝利するため再出発させて頂けることをとても有り難く思います。

宮城教区 仙南家庭教会

S・Tさん(男性)

第2地区・宮城教区が日本代表として選ばれ、真のお母様の前で歌と踊りを披露させて頂いたことをとても光栄に思います。日ごろは仕事のためになかなか練習時間が取れない中で、壮年たちが週に3、4回集まり、お母様の前に誠を尽くそうと頑張る準備をしてきました。今は、このような最初で最後かもしれない歴史的な式典に参席することができ、感謝の気持ちで一杯です。

西北東京教区 一心家庭教会

倉本京子さん(77双)

真の父母様の御聖誕に加え、御聖婚を永遠に祝賀していくという意味で、今回は本当に歴史的な祝祭だったと感じます。それと同時に、真のお母様の2020年にかかる強い思いを実感しました。会場が寒くてとても刺激的な経験となりましたが、真のお父様をすごく思い出しました。お父様はかつて、屋外のなるべく自然が豊かな場所に私たちを招いてくださることが多かったので、今回のような大自然の中で行った式典は、忘れることのできないものとな

鳥取教区 鳥取家庭教会

T・Mさん(女性)

天の父母様と真の父母様の愛の溢れる式典で、とても嬉しく、感動しました。中でも花火がとても素敵でした。時折、蝶なのか蛾なのか分からないものが夜空に舞っていましたが、何となく真のお父様を感じましたし、また風がざっと吹くたびに、「お父様が来ておられるのかな」と思うような、とても心温まる、懐かしい感覚がありました。(記念式に参加して)もう一度、天の父母様、真の父母様の願いに立ち返り、ぶれないように心情を整え、目的に向かって一歩ずつ歩んでいきたいと思いました。

日本人集会、宣教師集会を開催

記念式に先立つ22日午前、清平郊外の宿泊施設で「宣教師集会」が行われ、真の父母様の願いを受け1990年代半ばから母の国・日本の宣教師として世界各地で活躍した42人が参加し、宋龍天総会長ご夫妻と徳野会長から慰労と激励の言葉を受けました。宋総会長は元宣教師たちに対し、「天の祝福を受け日本教会は『家庭連合』という新たな名称で出発しました。(海外での経験を生かしながら)『祝福広報大使』として救国救世運動の旗手として歩んでください」と呼び掛けました。

また同日午後は、清心ビレッジに記念式参加のため日本から訪韓したメンバー全員が集まり、「日本人集会」が開かれました。徳野会長が熊本地震の被災地訪問について報告した後、宋総会長は御聖婚記念式の内的意義について解説した上で、真のお母様の最近のみ言を紹介しながら、「絶対精誠を投入すれば、成せないことはない」「夢は夢として終わらせてはならない。必ず成し遂げるものです」と強調。VISION2020の勝利に向かう私たちのあるべき姿勢を語りました。

後半のエンターテインメントでは、まず韓国で有名な男性歌手が真のお母様のお好きな「愛を探して、人生を探して」「愛の花」などを熱唱。また、リトルエンジェルス芸術団の華麗な舞と洗練された歌や、警護チームで構成される「アップル・ヘブン」の味わい深い楽曲が披露されました。日本からは、宮城教区の壮年合唱団が「み旨の応援歌」と「ムジョッコン(無条件)」の2曲を力強い歌声と激しいダンスを交えて披露し、会場を大いに盛り上げました。

フィナーレでは、参加者の歓喜の拍手に包まれながら、真のお母様のご登壇。お母様が「サランヘ(父母様)」を会場の参加者とともに歌い終わられると同時に、正面ステージの背後からごう音を響かせて数十発の花火が打ち上げられ、御聖婚記念日の夜空に光のページェントが繰り広げられました。

最後に、金起勲米大陸会長のリードで億万歳四唱を行い、赤色の花火が夜空を鮮やかに彩る中、3時間半に及んだ記念式は幕を閉じました。

宋総会長ご夫妻が熊本の被災地を慰問

UPeace が本格的な支援活動をスタート



- ① 阿蘇家庭教会でメッセージを語る宋龍天総会長
- ② 全壊した食口の家屋の前で祈りを捧げる宋総会長ご夫妻
- ③ 阿蘇家庭教会で地域の人々に弁当を手渡す宋総会長
- ④ 被災した家庭を慰労する宋総会長ご夫妻
- ⑤ 支援活動を行う UPeace のメンバー



4月23、24日の2日間、世界平和統一家庭連合平和ボランティア隊「UPeace」が熊本県内の被災地で支援活動を行いました。

今回の活動には合わせて65人のメンバーが参加。1日目には、被災した家庭の家財道具の片づけや引っ越しの手伝い、物資の仕分け等を行い、2日目は上記の活動に加え、阿蘇家庭教会で準備された手作りの弁当と味噌汁のほか、九州の各教区から届けられた生活用品などの支援物資を被災者に無料配布しました。

無料配布には、慰問のため熊本を訪れていた宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長ご夫妻も参加。近隣から集まった被災者に弁当や味噌汁を手渡しました。

無料配布には地域の住人約400人が集まり、350個準備された弁当は、わずか15分でなくなりました。

熊本市内は22日頃から徐々に水道が回復しつつあり

ますが、未だガスは使えず、市内の銭湯は2時間待ちの列ができるなど、被災者はまだまだ困難な日々を過ごしています。

UPeaceでは、ゴールデンウィークに入る4月末から本格的に被災地での支援活動を開始。義援金も受け付けていますので、多くの皆様の関心とご支援をお願いします。

【熊本地震被害に対する義援金募集中】

送金口座 ゆうちょ銀行
 記号：10140 番号：76685481
 名義：宗教法人世界平和統一家庭連合
 ※ゆうちょ銀行以外の銀行から振込みの場合は、以下のようになります。
 店名：〇一八（ゼロイチハチ）（普）7668548

ソウルで第34期「韓国留学予備課程入学式」

文妍娥院長が激励のメッセージ



4月11日、第34期韓国留学予備課程の入学式が、韓国・ソウルの海外留学生韓国教育院で行われ、7年プログラムの21人と1年のプログラム5人、及びその父母29人に対し、文妍娥院長が祝福と激励のメッセージを贈られました。

その中で、文妍娥院長は「皆さんは内的で霊的な永遠の父母を探し、身近に感じて学ぶために来たのでしょうか。その大切さがあるので、お父さん、お母さんは皆さんを韓国に送ったのです。皆さんの現在を見るのではなく、将来を見つめて大きな決断をしました」と語られました。

また、田中富広副会長は親子で韓国留学を選択した決意を称えた上で、「真の父母様と生活できる天国を目指して、皆さんが一番近道を選びました。その道を迷わずに登って欲しい」と述べました。

文妍娥院長は、全体記念撮影の後に家庭ごとにも記念撮影をして下さり、34期生は真のご家庭から大きな願いと深い愛を受けました。

入学式に先立ち、一行は10日に天正宮博物館を訪問。本郷苑への参拝の恩恵を頂き、真のお父様に留学の報告祈りを捧げました。

12日の最終日には、1年後に入学予定の善正学園を見学。校長先生から歓迎の言葉を贈られ、「世界兄弟学生苑」で梶栗正中統括舎監から韓国留学の意義について講話を聴きました。

最後の昼食の時間では、親子で手紙を交換。留学への思いを涙ながらに確認しながら、親子共々留学の決意を新たにして出発しました。



①入学式の最後に記念撮影
 ②歓迎の辞を述べられる文妍娥院長
 ③最後の昼食の時間に手紙を交換する親子

【父母の感想】

●韓国サマースクールで決意し、真の父母様の為になりたいと1年半準備してきました。留学生たちはみんな良い子たちばかりで、たくさんの恩恵の中、信仰が育っていく、これほど素晴らしい環境はないと思いました。（北愛知・東濃家庭教会 1さん）

●最後に娘にもらった手紙に、「家が遠くてなかなか教会にいけなかった分、留学を通して天の父母様と真の父母様に親孝行したい」と書いてあり、留学の恩恵を感じました。（岐阜家庭教会 Sさん）

●どの家庭も、そばにいて欲しい一番大事な子を留学に送っていることを実感しました。公的な立場でお父様が準備された留学路程を共に歩ませて頂く新しい出発ができました。（鹿児島家庭教会 Sさん）

心情文化共同体の創成を目指して

「全国地区事務局長・教区総務部長研修会」開催



①研修会に集まった全国の地区事務局長と教区総務部長
②宋龍天総会長
③李成萬本部長
④平井利明総務局長

「共生共栄共義による心情文化共同体の創成」をテーマに、4月13、14日の2日間、千葉・浦安の一心特別教育院で「2016年全国地区事務局長・教区総務部長研修会」が行われ、約100人が参加しました。

開会式には宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長が、閉会式には李成萬本部長が駆けつけ、日ごろ教会の裏方として苦勞している総務部長たちに対して激励のメッセージを語りました。

研修会は、業務の説明や問題解決のためのディスカッションなどのほか、提案や要望を発表する時間もありました。

【参加者の感想】

■映像や週報コンテスト、車両関係など、全国的にも様々な工夫していることを知り、取り入れていけることは取り入れていきたいです。総務部長が意識することで教会全体の環境も変化していくことが多いと感じました。日々の業務に追われ、なかなか取り組めないままになっていることもあります。研修会で受けた内容を各教会総務部長にも連絡し、改善していけるところから取り組んでいきたいです。(9地区 T・Y)

■何よりも、帰国されて真っ先に駆けつけてくださった宋総会長に感動しました。他の地区・教区の事務局長、総務部長が集い、意見交換ができて刺激になりました。閉会式で、李成萬本部長が「信仰はマラソン」「自己牧会が必要」「総務部長が一番訓練され天国が一番近いと理解してください」と語られたので、そのように受け止めたいと思います。また報告業務も「天の父母様に報告する心構えが必要」と語られたことがとても印象に残りました。(11地区 N・A)

■普段は集会中も裏方になり、み言を受ける機会が少ない我々にとって、宋総会長をはじめ李本部長のみ言をしっかり受け取ることができたことに感謝いたします。テーマごとの話し合いの中でも、全国それぞれの教会の事情や取り組みを共有することができたことで、現場に帰ってからの取り組みの参考になりました。普段、教会の中で黙々と働く総務部長にとって、このような研修会は有効であると思います。(12地区 H・R)

地域・家庭集会の定着と教育システム構築を強化

「全国伝道教育部長会議」開催



①全国伝道教区部長会議の参加者
②徳野英治会長
③矢野治佳伝道教育局長

「地域・家庭集会定着と教育システム定着による神氏族メシヤ勝利」をテーマに4月13、14日の2日間、宮崎台国際研修センター（川崎市）で、「全国伝道教育部長会議」が開催されました。

全国の地区・教区から集まった伝道教育部長81人は、開会式で徳野英治会長から「総合的な取り組みの必要性」「伝道教育の責任者は私だ」とのメッセージを受け、決意と自覚を新たにしました。

今回は、「礼拝成長」「伝道教育システム構築」「CIG活動の再構築」「祝福推進」「神氏族メシヤ推進」の5つのテーマを設定し、これらに対する「現場からの証し」と「本部方針と提案」の資料を事前に配布し、参加者はそれを学習した上での参加となりました。

会議では、各テーマに対してそれぞれ、「工夫を積み上げてきた各現場からの証しと報告」「本部伝道教育局の方針と提案事項のブリーフィング」「パネルディスカッション形式での質疑応答」を実施。それぞれの事例や課

題を掘り下げることで、充実した内容となりました。

また、1日目の夜は自由交流時間をたっぷり取ることで、関心のあるテーマについて本部スタッフや他の地区・教区の参加者と議論を深めることができました。

会議の最後には、矢野治佳伝道教育局長が「指導者の心得」を解説。責任者としての原点に戻って再出発する決意を固める時間となりました。本部と現場が一つになり、2016年勝利に向かっての出発がなされました。

参加者からは、「この2日間、神様がとても大きな願いを持って私たちを呼び集めて下さったことを感じます。実質的な教会成長と救国救世基盤づくりの出発に相応しい会議でした」、「家庭集会から伝道、2日修、祝福、そして世界に貢献する道をいかに作るかが整理され、今後の方向性が明確になりました」、「全国の良い現場の証しを直接聞いて本当に参考になりました。同じような課題や問題に対する考え方や対処は是非、取り入れていきたいです」との感想が寄せられました。

若者よ 夢を抱き、志を持て！

「ウェスト・ユース・フェスティバル 2016」に 600 人が参加



①スピーチを行う佐野忠國・成和大学生部長
②会場を盛り上げたバンド演奏
③中高生による「天一国ダンス」
④フィナーレで立ち上がり手を振る参加者たち

4月17日、東京・三鷹市内の会場で、「ウェスト・ユース・フェスティバル 2016」が開催され、西東京教区の青年を中心に600人あまりが参加しました。

フェスティバルは、中高生による天一国ダンスで開幕。その後、熊本県を襲った大地震の被災者のために全体で黙祷をささげました。

「君が代」の斉唱、「救国救世」をテーマにした劇に続いて、佐野忠國・成和大学生部長が「希望の未来」と題し、スピーチを行いました。

佐野部長は冒頭、「皆さんは夢がありますか？」「またそれに向けてどのくらい努力されていますか？」と参加者に問いかけ、「未来を創る若者は夢をもつこと、志を持つことが大切だ」と強調。いま世界では5秒に1人の割合で子供が命を落としていることに触れながら、自身の夢は「子供たちの笑顔であふれた人類一家族世界をつくることだ」と語りました。

一方、幼いころ、自らの両親が神のみ旨のために邁進している姿に尊敬の念を抱くとともに、「どうしてそこまで自己犠牲をしながら歩んでいるのか」と疑問を持つ

ようになったと説明。ある時、両親にその理由を尋ねると、「自分でその答えを掴みなさい」と言われたエピソードを紹介した上で、自らの信仰路程を証しました。

最後に、家庭こそが全てを学ぶことができる「愛の学校」であると述べ、「神様を中心とした人類一家族世界をみんなで一緒に築いていきましょう！」と呼び掛けました。

その後、大学生7人によるヒップホップダンス、本格的なアクション劇「スパイダーマン2」、新結成されたバンドが会場を盛り上げ、最後は全員が立ち上がり「ハビネス」を合唱し、出演者も参加者も一体感と希望を感じる大会となりました。

参加者からは、「教会をあまり知らない方々に向けて、若者がストレートにメッセージを伝えられる場であることに喜びを感じました」、「初めての参加でしたが、楽しかったです。（出演した）皆さんがキラキラしていて、私もまっすぐになれるものを見つけて実践したいと思いました」などの声が寄せられました。

“受けた恩を忘れてはいけない”

鳥取で「自叙伝心の書写ファミリーフェスティバル」



①講話を行う浅川勇男先生
②地元ゆるキャラが登場した大抽選会
③会場を魅了した元気なダンス
④多くの参加者でにぎわう会場ロビー

4月17日午後、前日の夜からの暴風雨が収まり晴天に恵まれる中、鳥取市内の会場で「1500名 幸せを呼ぶ自叙伝心の書写ファミリーフェスティバル」（主催・鳥取家庭教会）が開催され、新規711人を含む1270人が参加しました。

オープニングでは、民謡や壮年による合唱、ダンスが披露された後、朴用浩・鳥取教区長と陸泰昊・第16地区長が挨拶を行いました。

講師の浅川勇男先生は、「夢をもって志を立てる」の題目で講話。「幸せになる秘訣は、受けた恩を忘れないことです」と強調しました。

講話後には、300人が当たる大抽選会を実施し、会場は大いに盛り上がりました。

鳥取家庭教会にとって今回のフェスティバルは大きな挑戦でしたが、子供からお年寄りに至るまで教会員全体が「天の父母様の夢を実現したい」という心情に突き動かされて「1500人動員」に向けて邁進。本格的に神氏族メシヤ活動を出発させる大会となりました。

新規ゲストを動員した教会員から、以下のような証し

が寄せられています。

「ある新規のご夫妻が大変復興しておられました。特にご主人が感動された箇所は、（講話の）受けた恩は忘れてはいけない、尽くしたことは忘れなさいというくだりだったそうです。親に縁が薄く、ずっと祖父母によって幼少期を育てられた方で、おばあさんから親代わりに受けた恩を思われたのでしょうか。今日の話はご主人が人生で感じてきたこと、歩んできたことそのごとの話だったようで、涙にむせぶことが多くあったとのことでした。奥様も、感極まった場面がたびたびあったそうです」（壮年、6000双）

「自分が勤めている会社の社長や同僚が何人か来て下さいました。ある壮年教会員の証しを聞き、自分が生きている意味や会社に勤めている意味を改めて考えさせられ、『自分が責任を持って伝えるしかない！』と決意するとともに、霊界から押し出されるような感覚がありました。（社長に声をかけると）気さくな社長は『行かせていただきます』とあっさりOKをしてくださいました」（会社の社長をはじめ17人を招待した青年）

「中日本霊園聖和祝祭」に600人参席

徳野会長が記念メッセージ



① 聖和祝祭の参列者
② 記念メッセージを語る徳野英治会長
③ 献花を行う参列者
④ 昼食をとりながら聖和者をしるぶ家族

晴天に恵まれた4月9日、満開の桜が参列者を迎える中、三重県鈴鹿市の峯ヶ城霊園パークで、「第1回中日本霊園聖和祝祭」が挙行され、約600人が参席しました。

聖和祝祭は、聖歌讃美、敬拝、家庭盟誓、代表報告祈禱に続き、徳野英治会長が献花。続いて、主催者の中日本愛苑会の西口善久代表理事が経過報告を行い、同霊園にはこれまで、約100人の方々の納骨がなされていると述べました。

また、全国聖和家庭会の星野義雄理事長は来賓挨拶で、先駆けて献身的にみ旨を歩み聖和した信徒の遺族をケアするため、物心両面の支援体制を築く目的で家庭会が設立されたと語りました。

一方、徳野英治会長は記念メッセージで、人生の3段階について解説しながら、地上生活において私たちが成すべき内容をユーモアを交えて分かりやすく話しました。

また徳野会長は、インターネットを通じた報道が相次

ぐなど家庭連合の祝福結婚に対する世間の関心が高まっていることや、直接に祝福への申込みがある事例を紹介しながら、「霊界の全面的協助が始まっている」と指摘。「家庭連合を中心とする私たちの歩みには希望があり、自信を持って活動する時が到来しました」と訴えました。

さらに、真のお母様が元老食口たちに対される時、「人間の死期は神に委ねるしかない。健康に留意して長生きし、生を全うして欲しい。そして残された期間を良く生きて、美しく霊界に向かって下さい」と語られることを紹介。お母様の願いは神氏族メシヤの使命を全うすることにあると強調しました。

聖和祝祭は最後に、億万歳四唱を行い、記念撮影をして全ての式次第を終了しました。

参列者はその後、主催者が準備した弁当と豚汁に舌鼓を打ちながら聖和者を偲ぶとともに、久しぶりに再会した信徒らと交流の時間を過ごし、各自三々五々帰途に就きました。

兵庫・加古川家庭教会で献堂式

新聖殿を拠点に神氏族メシヤ活動推進



① 教会前で記念撮影
② 除幕式の様子
③ テープカットに先立ち祈禱する徳野英治会長
④ 青年たちがダンスを披露



4月10日、天の祝福を受けて晴天に恵まれる中、徳野英治会長ご夫妻をお迎えして兵庫教区加古川家庭教会の新聖殿献堂式が行われました。

第1部の式典では、徳野会長ご夫妻、陸泰晃地区長などがテープカットを行った後、除幕式、オリーブの木の記念植樹、聖殿聖別式が執り行われました。

徳野会長は、テープカットの際の祈禱の中で、天一国を実現しようとする真のお母様の心情と決意を相續し、加古川家庭教会が1年以内に2倍化、3倍化を達成できるよう願いを込めました。

続いて2階礼拝堂に地元議員などの来賓を迎える中で、記念礼拝が行われました。

加古川家庭教会のバンドチーム「サンシャイン」による祝歌、聖殿建設の経過報告、献堂貢献者への感謝状授

与、陸泰晃地区長の挨拶、徳野久江会長夫人の激励の言葉などの後、徳野会長が熱くメッセージを語りました。

その中で徳野会長は、真の父母様が人類の父母として立たれた偉大さを証しするとともに、家庭連合の祝福結婚がネットを通して社会に良い影響を与え、高く評価されてきていることを紹介。その上で、今後は新聖殿を拠点として、神氏族メシヤの使命完遂を果たそうと激励しました。

第3部は、音響・照明等の舞台設備を整えた礼拝堂が午餐会の会場に様変わり。エンターテイメントでは、姫路、加古川両家庭教会の子供たちによる天父報恩鼓のほか、青年や元ミュージカル俳優とのコラボによる歌あり、ダンスありのショーが披露され、会場を大いに沸かせました。